

失敗しない!

※学校でのキャリア教育実践の参考として、各コーディネーターの思いと活動事例を紹介します。

取材・文章作成のコツを伝授!



飯野高校「仕事図鑑」制作に向けた取材・文章作成の講座＝2023年7月12日



高鍋高校「未来新聞」づくりにカスタマイズした文章講座＝同年9月21日

地域課題解決や企業研究には、インタビューや文章作成が伴います。どんな課題を選び、どう調べ、どんなふうにとまとめるか——大人にも難しい作業ですよね。飯野高校や高鍋高校で、`限られた時間で結果を導く、コツをお伝えしました。

期待される効果

- ・インタビューを通じ、**人間関係形成・社会形成能力**（他者の個性を理解する力、コミュニケーションスキル）が向上します。
- ・他者の生き方や考え方を文章にとまとめる作業は、**自己理解・自己管理能力**（自己の動機づけ、主体的行動）を育むきっかけになります。
- ・取材の端緒となる「疑問点」を発見したり、紙面やウェブで読者にわかりやすく伝える工夫をしたりすることが、**課題対応能力**（計画立案、課題発見、情報処理）につながります。
- ・クラスメートの成果物（文章や紙面）を回覧することで**キャリア・プランニング能力**（生き方の多様性の理解、働く意義の理解）を高めることができます。

先生からの評価

飯野高校
小澤正太先生

飯野高校では、1年生が地域の職業人を取材して冊子にとまとめる「仕事図鑑」の作成に取り組みました。社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）を高め、主体的な進路選択につなげるのが目的です。コーディネーターには生徒全員を対象にした「取材&文章作成術」の講演のほか、生徒でつくる委員会に編集上の指導・助言をしてもらいました。生徒たちはそのレクチャーをもとに取材・記事作成にあたり、主体性、課題発見力、情報発信力、傾聴力などが高まったと感じています。



コーディネーター：佐藤修史（さとう・おさふみ）

自ら「問い」を立て、取材し、文章にするという一連の知的作業を通じ、好奇心をかたちにする喜びを実感してほしいと思っています。新聞記者や雑誌編集長の経験を踏まえ、企画立案、取材の準備、インタビューの手法、撮影の基礎、文章の書き方、見出しの立て方、紙面構成など、実践的なノウハウをお伝えします。

県キャリア教育支援センター所属のコーディネーターは、次の視点で各学校のキャリア教育実践を支援しています。

○各学校の特色を活かしたキャリア教育プログラムの推進

○地域・関係団体・産業界と連携した高校・特別支援学校のキャリア教育プログラムづくり

コーディネーターへの相談・依頼は県キャリア教育支援センター（0985・24・3156）にご連絡ください。

県キャリア教育支援センターのHPは <https://cms.miyazaki-c.ed.jp/ssc058/>

HPの「活動日誌」（右のQRコード）に多くのキャリア教育実践を掲載しています。

